

「医法協アカデミー」▶ 第65回

「社会医療法人」としての活動を通じ 職員や地域の信頼と満足度向上めざす

日本医療法人協会常任理事／社会医療法人社団慈生会等潤病院理事長・院長 伊藤雅史

地元イベントへの積極的な参加が 地域医療のあり方を考えるきっかけに

このたび、日本医療法人協会常任理事並びに東京支部長を拝命いたしました。諸先輩方のご指導を仰ぎ、微力ではございますが、本協会発展のために努力したいと存じます。よろしく願い申し上げます。

さて、私どもの法人は昨年4月より社会医療法人として歩み始めました。昭和49年に前身の診療所が設立され、54年に医療法人、平成14年に出資額限度法人、18年に特別医療法人へと変遷しました。19年4月の理事長就任時は第5次改正医療法が施行され、特別医療法人廃止までの5年間、多くの方々のご協力を得て現在に至りました。

社会医療法人になっても日々の診療は変わりませんが、大きく変わったこともあります。その一つが、地域医療に対する職員や地域の皆様の意識変化です。職員には法人理念である「地域とともに生きる慈しみのトータルヘルスケア」を、社会医療法人としてさらに充実させようと呼びかけました。すなわち、「自ら出向いて地域の皆様と交流して信頼を得る姿勢」を強調したのです。

すると、昨年11月に職員の発案・企画運営に

より「等潤病院健康まつり」が開催されました。メインテーマは「地域の方の健康応援隊」。雨天にもかかわらず300人以上の方が来訪されました。地元の一ツ家四丁目町会(東京都足立区)の皆様にはテント設営やバザーでの調理販売をお手伝いいただきました。さらに、警察署や消防署、地元メディアにも協力していただきました。今年も6月に第2回目を開催。「生活習慣病について考える」をテーマに、足立区衛生部・保健所との合同企画も行いました。

また、トータルヘルスケアの一環として、健康増進や予防医学への取り組みを提唱し、地域のイベントにボランティアで参加して、啓発活動を開始しました。看護師や栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーによる各種相談、リハビリスタッフによる健康体操など、チームを組んで



行っています。区保健所とのコラボや健康あだち21への参加のほか、区浴場組合や地域包括支援センター、地元町会のイベントなどに月に2～3回以上出勤しています。さらに看護部は独自で「看護の日」にちなむイベントを5日間企画し、看護師総出で当院や地元スーパーで啓発活動を行いました。

活動を通じて職員は、地域医療はどうあるべきかを各立場から考え、その手応えを実感しているようです。地域の皆様からの心温まる支援は予想を超えて大きく広がり、望外の喜びであると同時に、社会医療法人の意義を再認識しました。

透明性のある組織改革を進め 職員が安心して働ける環境整備

もう一つの変化は、人事採用に関することです。医療・介護の世界は労働集約性が高く、優秀な人材の確保が組織存亡にかかわります。当法人も苦戦の連続です。しかし、昨年4月入職の看護師の90%は紹介会社からの採用でしたが、今年はホームページや広告経由で応募された方が大幅に増え、紹介会社経由は約半数まで減少。その後も同様の傾向が続いています。

ここには、当院の理念への共鳴があったと考えられます。中小病院ではありますが、二次救急・急性期病院としての機能を高め、リハビリテーションの充実を図っていることや、グループ内の在宅療養支援診療所である常楽診療所や介護事業所と連携して、看取りを含めた在宅医療・介護を推進していることなど、トータルヘルスケアへの理解と共感が応募動機となったのでしょう。

また、理事長就任時に行った職員満足度調査では、すべての項目で全国平均を大きく下回り、特に労働環境や評価法、医療の質、教育等に多くの

不満が聞かれました。その後、就業規則改定を機に人事考課制度を確立し、職員の求める「頑張った人には頑張っただけの評価」を実現できるように努力しています。加えて労働環境を整え、平成23年には東京都ワークライフバランス認定企業に選ばれました。24時間院内保育所の充実、労働時間短縮の推進、短時間正職員・夜勤制限正職員制度、時間単位有給休暇取得制度の導入、職員満足度調査の継続的实施などが評価されました。

そのほか、医療の質改善のために病院機能評価認定を受け、部門と全体の目標管理手法として「京セラ式原価管理手法」を導入。看護部を中心にクリニカルラダーを用いた教育システムの整備、各部門の計画的な研修・発表の推進、システム部門をJSIC事業所として独立させ、情報共有のための先駆的なIT環境の整備なども、医療人としての誇りを醸成しています。

これら職員が安心して働ける環境整備は、即効性のある人材確保策ではありませんが、職員満足度の向上と社会医療法人にふさわしい透明性ある組織改革を着実に積み上げてきたことが大きく影響したものと思われます。東京都病院協会看護部会で委員を務める当院の看護部長からは、最近、会員病院から「めざせ等潤!」という言葉が聞かれるようになったと報告を受けました。私としては先輩病院の取り組みを後追いし、少しでも追いつきたいとの一念で努力したつもりです。

医療法人は医療・介護などの公的サービスを担い、地域への貢献を求められます。それ故に、地域や社会の要請に適正に対応するため、自ら常に改革を進めることが必要です。その地道で継続的な努力によって初めて、地域や職員の信頼と満足度の向上が得られるのではないかと実感しています。